

高知県全県域生活排水処理構想 2023 (概要版)



高 知 県

「高知県全県域生活排水処理構想 2023」

高知県では、河川や海域など公共用水域の水質保全と、生活環境の改善を図るため、生活排水処理施設の効率的な整備を進めることを目的とした、高知県全県域生活排水処理構想を平成9年度に策定し、その後、人口減少などの社会情勢の変化を踏まえて平成15年度、平成23年度及び平成30年度に見直しをしてみました。その結果、生活排水処理施設の普及状況を示す汚水処理人口普及率は、平成8年度末に25.7%であったものが、令和4年度末には77.9%まで向上しました。

このたびは、前構想策定から5年以上が経過したことに加え、令和4年度には「高知県汚水処理広域化・共同化計画」が策定されたことを踏まえ、前構想の内容を評価するとともに、人口等最新の社会情勢を反映し、かつ、高知県汚水処理広域化・共同化計画を反映した構想とするため、見直しを行いました。

① アクションプラン（目標年次：2026年度（令和8年度））

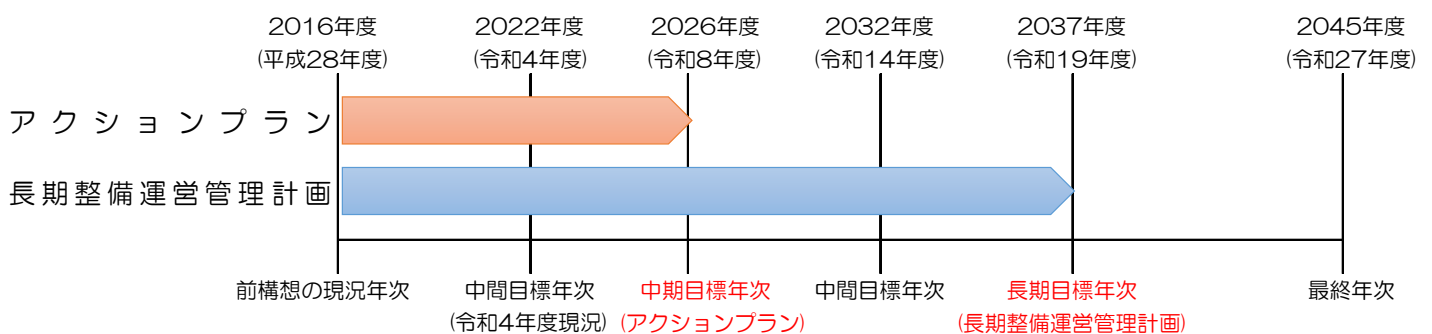
2026年度（令和8年度）末までの汚水処理施設概成を目標とした、先進的技術導入や計画区域見直し、民間活力導入等を取入れた効率的な未普及対策整備計画。

② 長期整備運営管理計画（目標年次：2037年度（令和19年度））

人口減少等を見込んだ財政見通しに基づく、持続可能な施設の運営管理に向けた、施設の統廃合、計画的改築更新及び広域的な維持管理体制整備等による、おおむね20年間の効率的な施設の運営管理計画。

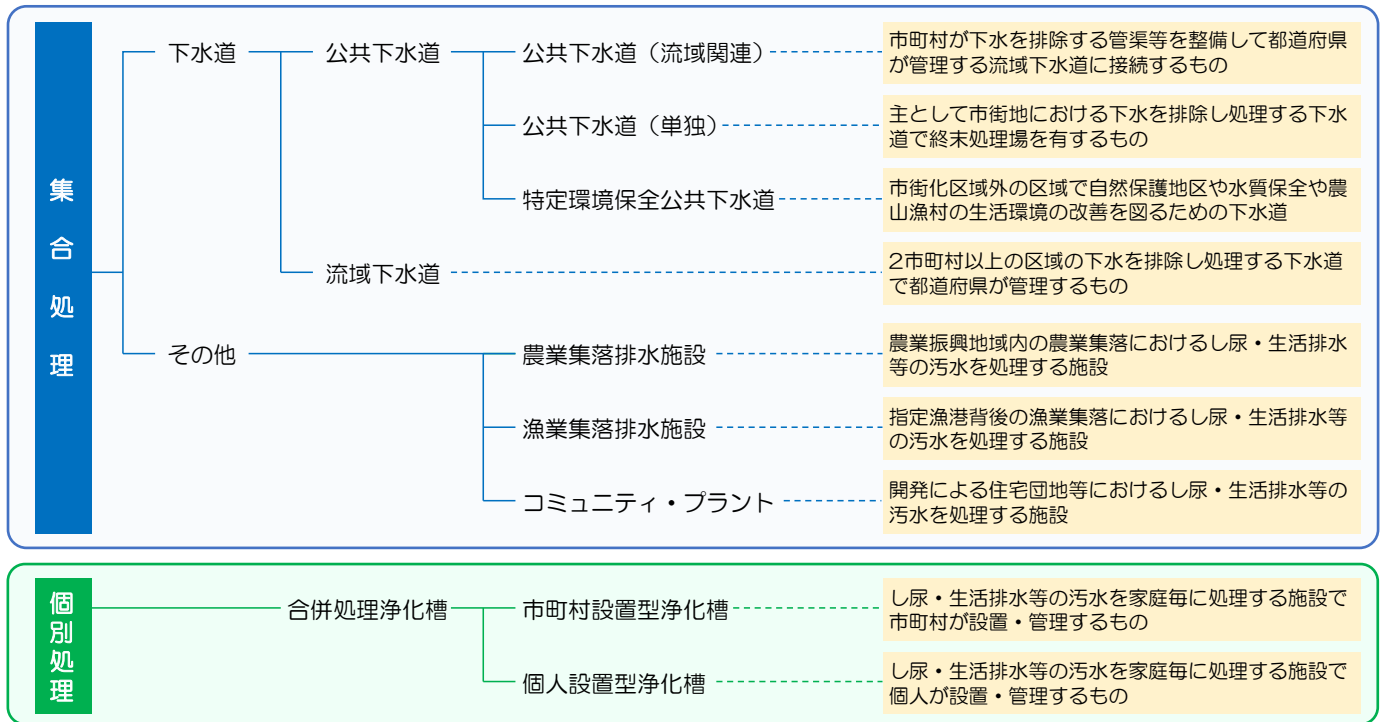
③ 最終年次（目標年次：2045年度（令和27年度））

汚水処理施設の概成を目標とした、最終の目標年次。

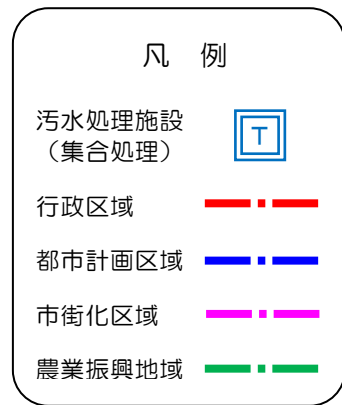


生活排水処理施設の種類

汚水処理施設は、複数の家屋等の汚水を集約して処理する集合処理と、家屋等毎に設置された合併処理浄化槽で処理する個別処理の2種類に大別されます。高知県で実施している主な施設は以下のとおりです。

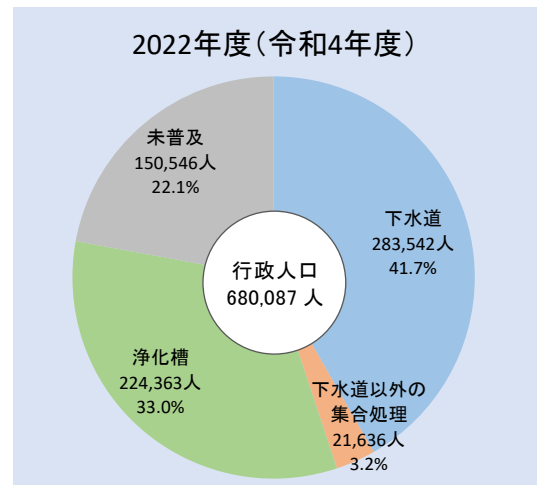
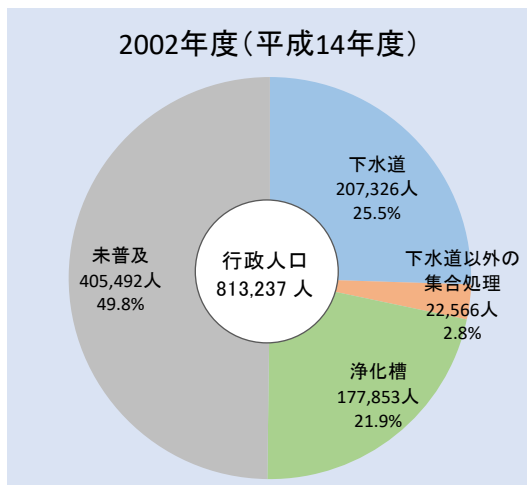
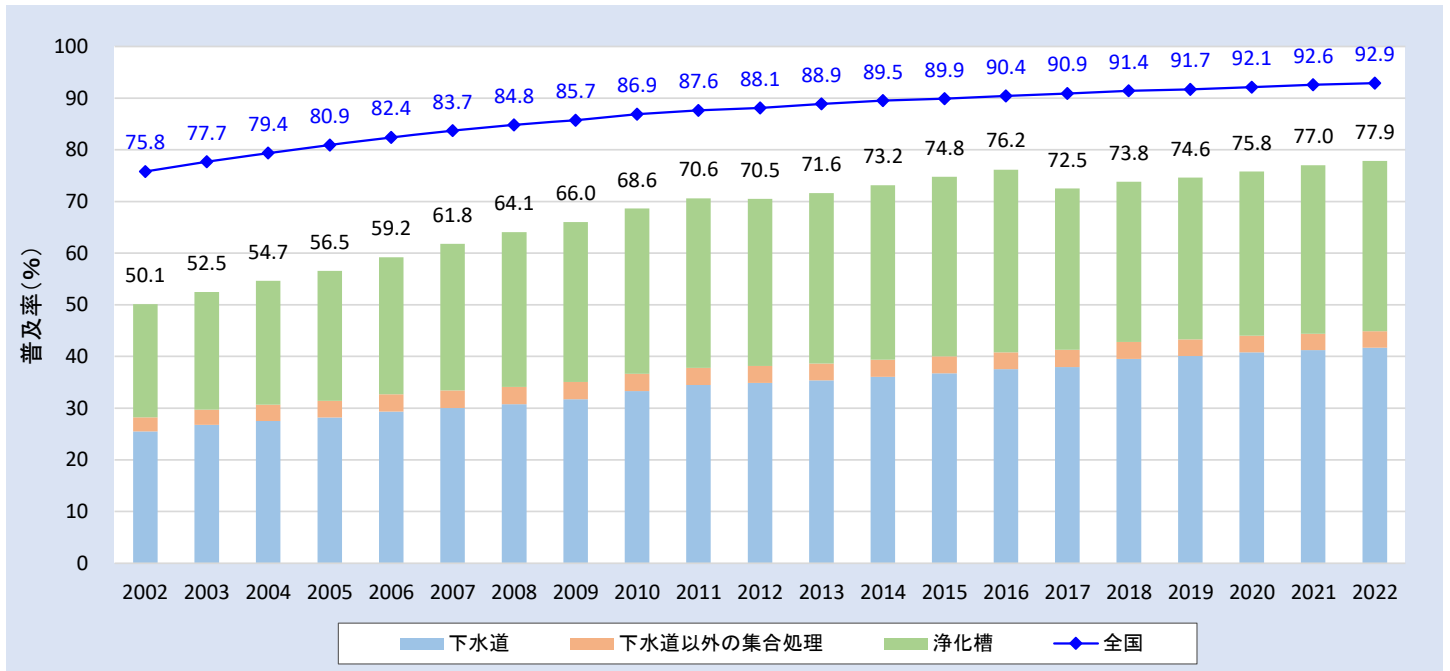


生活排水処理施設の概念図



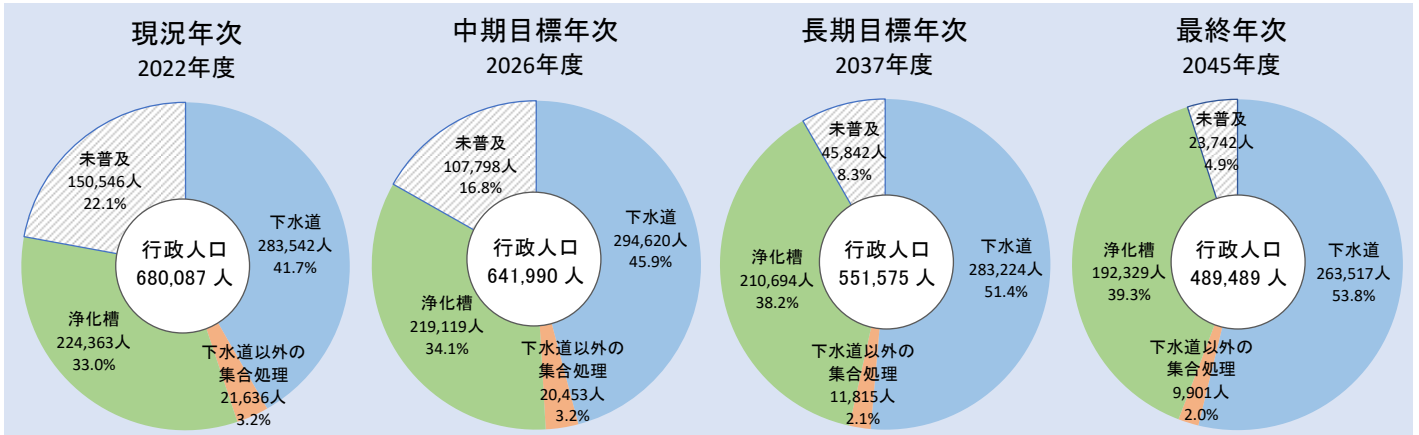
汚水処理人口普及率の現状

生活排水処理構想に基づき施設整備を進めてきた結果、汚水処理人口普及率は、2022年度（令和4年度）で、77.9%となっています。

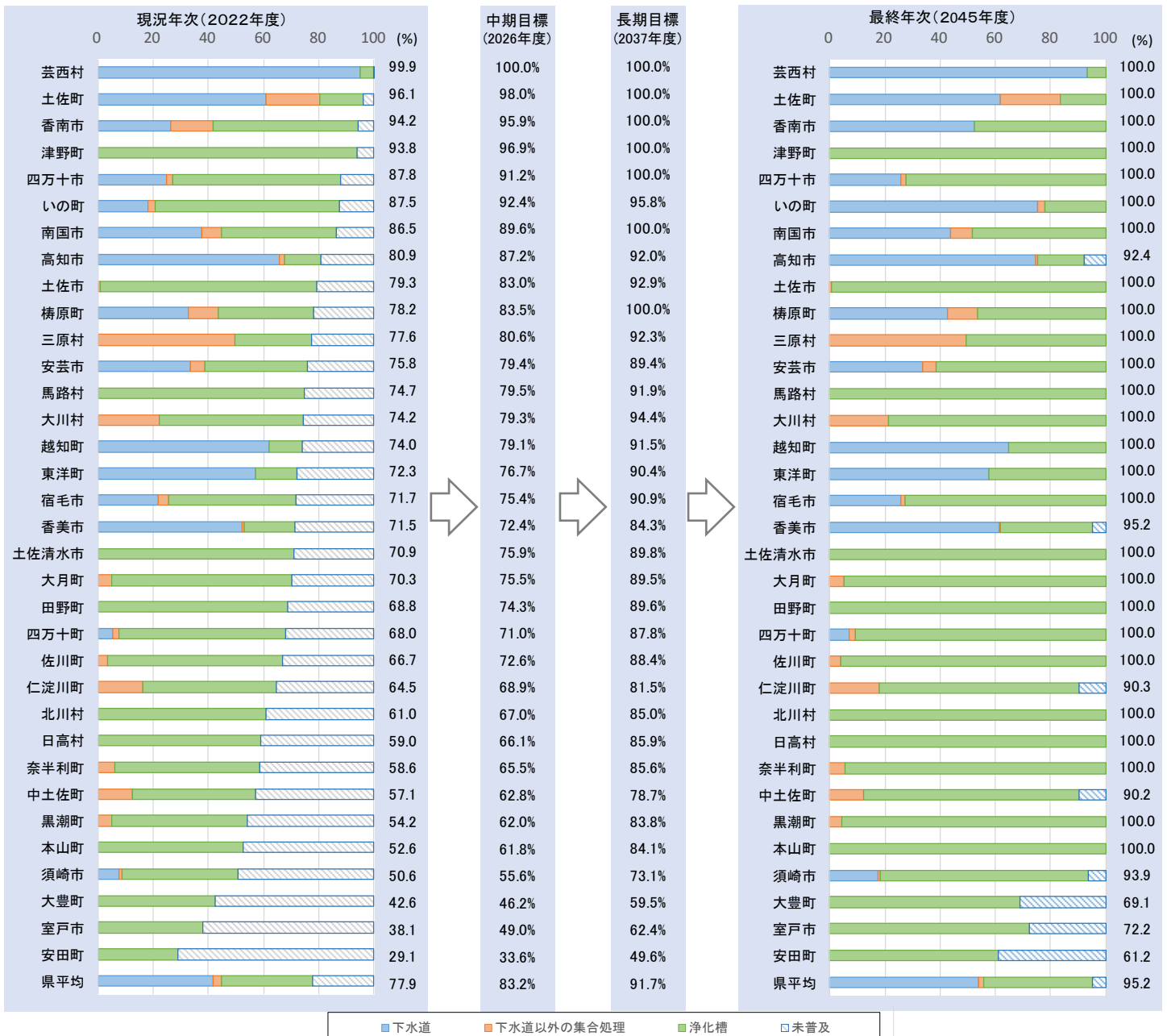


「高知県全域生活排水処理構想 2023」の目標

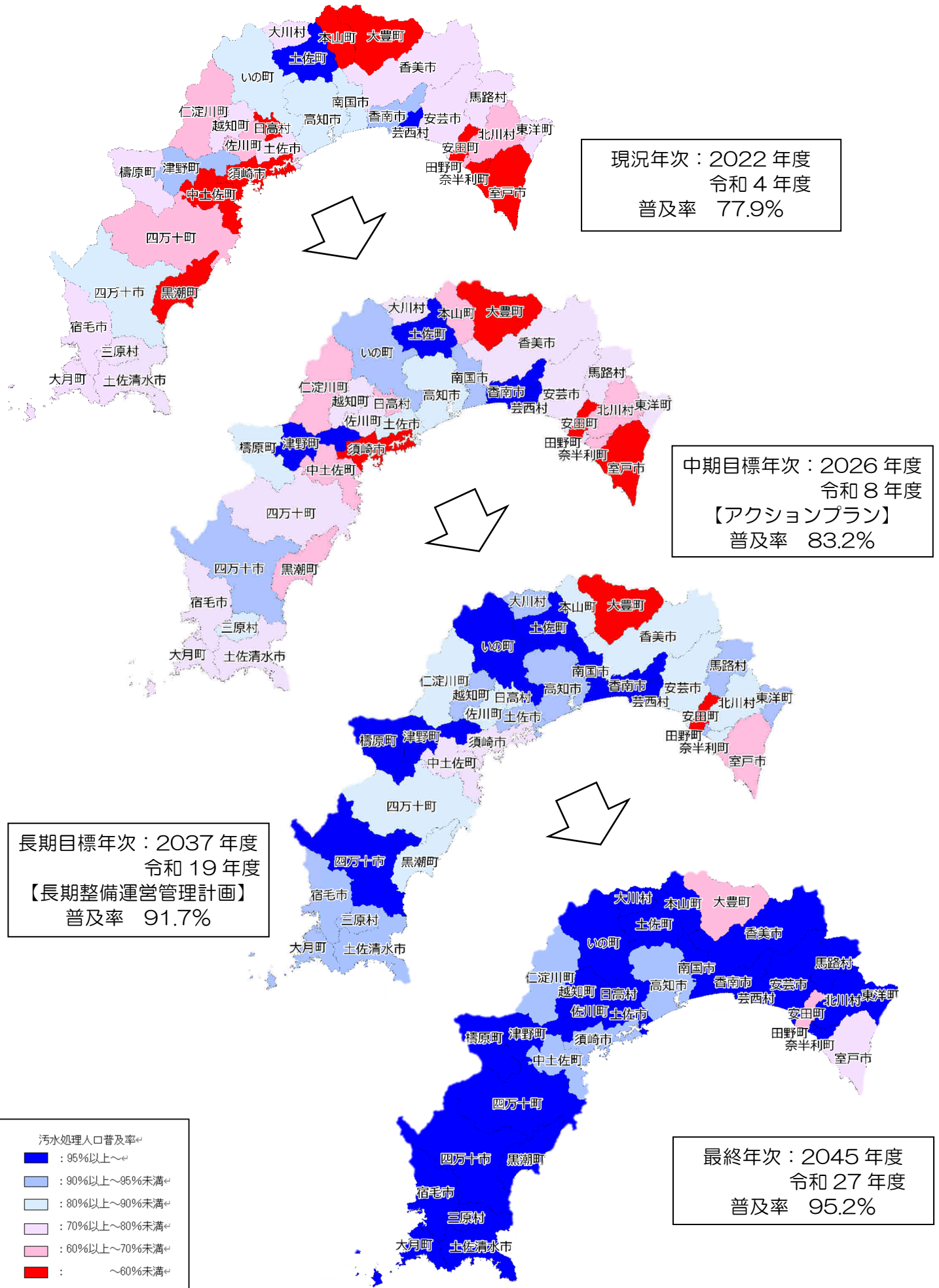
今後、施設整備を推進することにより、中期目標 2026 年度（令和 8 年度）で、83.2%、長期目標 2037 年度（令和 19 年度）で 91.7%、最終年次 2045 年度（令和 27 年度）では、集合処理が概ね完了する予定で 95.2%となる見込みです。



市町村別汚水処理人口普及率



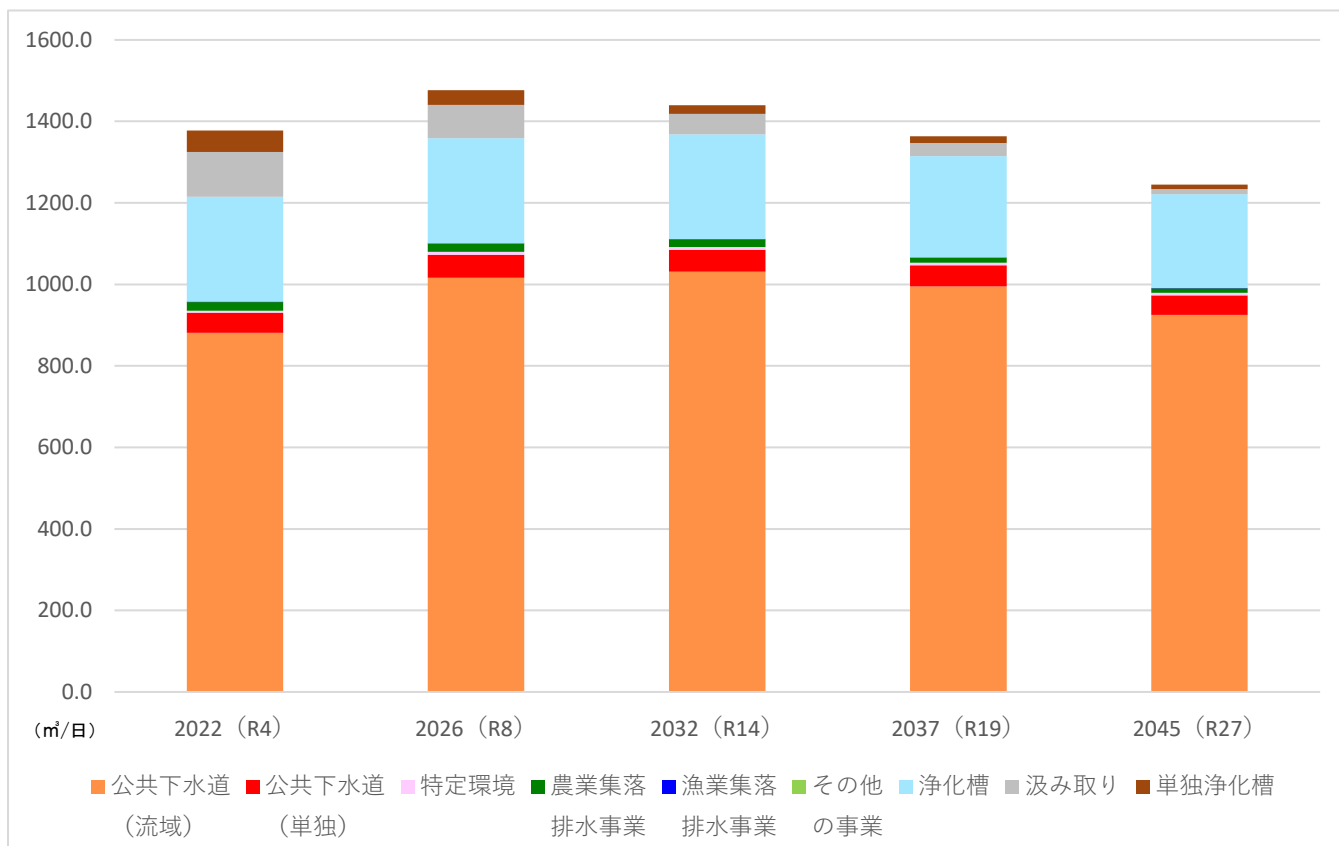
汚水処理人口普及率の推移



汚泥処理計画

汚泥処理にあたっては、安定的な汚泥処理を行うことを前提としつつ、循環型社会の形成に向け、汚泥の資源化あるいはエネルギー化を促進していきます。特に下水道事業においては、下水汚泥資源を肥料として最大限に利用するよう求められている状況等も踏まえ、肥料利用の拡大に向けた検討を継続していきます。

また、運営管理の効率化及び地域の特性を踏まえた利活用(資源利用あるいはエネルギー利用)の観点から、複数の汚水処理施設から発生する汚泥の集約化等については、引き続き、広域化・共同化計画に基づき検討していきます。



取組方針

集合処理施設の整備については引き続き、計画的な整備を進め、早期の概成を目指します。加えて、整備済み区域内の水洗化率の向上も図っていきます。

個別処理施設の整備については、浄化槽整備に関する住民の理解を深めるための広報活動や周知を積極的に行い、設置率の向上を図っていきます。